清末民国期における詩讃体講唱芸能の成立と出版に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-10-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上田, 望, Ueda, Nozomu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00060744

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

清末民国期における詩讃体講唱芸能の成立と出版に関する研究

Research Project

All

Project/Area Number

11710248

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

中国語・中国文学

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

上田 望 金沢大, 文学部, 助教授 (90293331)

Project Period (FY)

1999 – 2000

Project Status

Completed (Fiscal Year 2000)

Budget Amount *help

¥2,200,000 (Direct Cost: ¥2,200,000)
Fiscal Year 2000: ¥700,000 (Direct Cost: ¥700,000)
Fiscal Year 1999: ¥1,500,000 (Direct Cost: ¥1,500,000)

Keywords

鼓詞 / 皮影戯 / 詩讃体 / 清末 / 石印 / 講唱芸能

Research Abstract

1.資料の収集
1999年9月に中国の北京、山西省太原地区へ出張し、民国期に刊行された鼓詞の石印本、詩讃体講唱芸能の木版本などの一次資料を収集した。また、清朝から民国期にかけての出版業に関する文献資料を収集した。
2.資料の整理
中国語OCRソフトが利用できるパソコンと周辺機器を利用し、解読できた鼓詞・皮影戯などの文献資料のテキスト文書化をすすめている。また、中国語データベースソフトを用いて文書化された諸資料から詩讃体講唱芸能の言語的特徴についても解析作業を進めている。音声・映像資料の整理・解読にはまだまだ多くの困難が伴うため、とりあえずこれらの資料をデジタル化してホームページ上で公開し、広く他の研究者の閲覧・利用に供することを検討している。
3.研究成果の中間報告
明清時代から民国期にかけての通俗文学の歴史的変遷を講史小説の代表作『三国演義』を中心に出版の視点から考察して、木版印刷というメディアが通俗文学の成立と普及にいかに深く関わっていたかを明らかにし、その成果を1999年9月の第13届三国演義学術討論会で「『三国演義』和明清出版分化」と題して報告、海外の研究者からも一定の評価を受けた(『文学遺

産』2000-1,p 105)。同論文は『文学遺産』編集部より寄稿依頼があり、まもなく同誌に掲載される予定である。また討論の模様についても討論会参加報告を作成し、『中国古典小説研究』第5号に掲載されることになっている。

Report (1 results)

1999 Annual Research Report

Research Products (2 results)

All Other

All Publications

[Publications] 上田望: "『三国演義』和明清出版分化"文学遺産. 第2期. (2000)

[Publications] 上田望: "第12回三国演義学術検討会参加記"中国古典小説研究. 第5号. (2000)

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-11710248/

Published: 1999-03-31 Modified: 2016-04-21